ピース・ウイング長崎 会報

ぺぷらす

140号

■公益財団法人長崎平和推進協会　〒852-8117 長崎市平野町7番8号　■電話(095)844-9922　FAX(095)844-9961
http://www.peace-wing-n.or.jp

追悼平和祈念館の100万人目の入館者となった小林さん御一家
（2ページに関連記事）

■追悼平和祈念館入館者が100万人に到達
・記念セレモニーを開催
・追悼平和祈念館のあゆみ
・平和へのメッセージ紹介
■「長崎国際平和映画フォーラム2013」
■ニュージーランドで原爆展が開幕
■追悼平和祈念館企画展のお知らせ
■「第5回核兵器廃絶 - 地球市民集会ナガサキ」
■国連軍縮週間行事「市民のつどい」を開催
■「外国人と市民の集い」を開催
■神田香織氏 講演会のお知らせ
■第5期生平和案内人育成講座が開講
■TOPICS！
・被爆者健康講話のお知らせ
・CTBTO準備委員会事務局長が来館
・米国の核性能実験に対し抗議文を送付
・世界の核弾頭数
・会員数報告・寄付者紹介

入館者100万人到達にあたって

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
館長　智多　正信

開館以来の通算入館者100万人到達は、年が明けての達成かなと予想していましたが、はるかに早まり11月20日に100万人目の入館者をお迎えしました。記念すべき入館者は東京都国分寺市の小林亮大、奈美ご夫妻と奏斗くん（4歳）のご家族でした。

今年の7月6日に開館10周年を迎え、今年度中の100万人の入館達成を目標に追悼平和祈念館の運営にあたってきました。多くの市民や県外、海外からのお客様も増えてきたように思います。追悼の誠をささげる場としての認知度が高まってきたのでしょう。会員の皆様をはじめ、平和案内人の皆様、多くの長崎市民の方々にお客様を案内していただいています。被爆者の体験やその証言はまさに歴史的遺産であり、追悼平和祈念館の役割は増すばかりです。

一人ひとりの真心の積み重ねが100万人という大きな数字になりました。これからもさらに多くの方々のご来館を期待するとともに、ますます世界恒久平和の実現に向かって職員一同頑張りたいと思います。

心から感謝申し上げます。

追悼平和祈念館 入館者100万人記念セレモニー

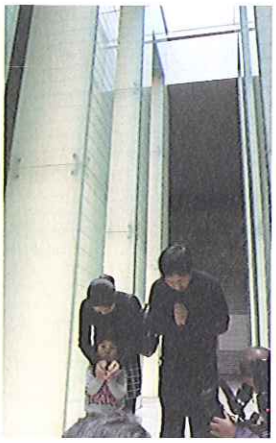
平成15年7月6日に開館し、今年で開館10周年を迎えた追悼平和祈念館の入館者が11月20日、100万人に到達し、記念のセレモニーを開催しました。

100万人目の入館者となったのは、家族旅行で長崎を訪れた東京都国分寺市在住の小林亮大さん、奈美さん、奏斗くんのご家族（表紙写真）。待ち構えるテレビカメラを前に少し緊張されている様子でしたが、舩山忠弘副理事長から100万人目の入館認定証や智多館長直筆のイラスト入り色紙などの記念品が贈られ、和やかな雰囲気のセレモニーになりました。

また、海外原爆展のためニュージーランドに出張中の智多館長も国際電話で感謝の言葉を述べ、セレモニーに花を添えました。

「長崎に行くのなら立ち寄ろうと思っていた施設」「私たちが原爆のことをもっと知って、子供に伝えていきたい」と話された小林さん。

セレモニー終了後は、職員の案内で祈念館を見学し、追悼空間で原爆死没者のご冥福を祈っていました。



メッセージコーナーでは、奏斗くんが家族3人の絵を描いていました。絵は祈念館に10年間保存されます。大きくなった奏斗くんがまた長崎を訪れるときは、4歳の自分が描いた家族の絵をぜひ見にきてほしいですね。

追悼平和祈念館開館（テープカット）
（平成15年7月6日）

交流ラウンジでの風通し
（平成15年～）

初のピースネットを実施
（平成16年9月）

追悼平和祈念館 開館からのあゆみ

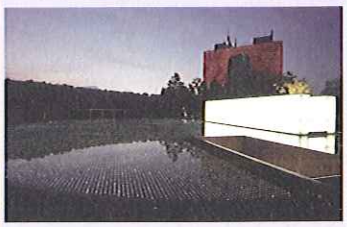
被爆体験記朗読ボランティア育成講座開講
（平成24年4月）

被爆者健康講話を開始
（平成20年～）

初の海外原爆展を米国シカゴで開催
（平成17年5月）

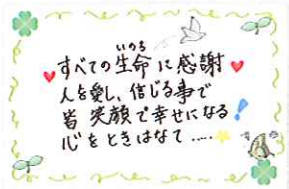
【追悼平和祈念館の主な受賞歴】

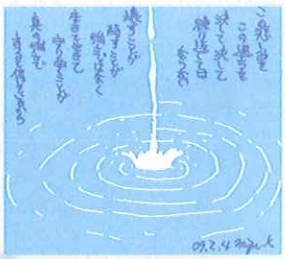
- 第13回長崎市都市景観賞（平成16年）
- 第22回日本照明賞（平成16年）
- グッドデザイン賞（平成16年）
- 第46回建築業協会賞（平成17年）
- 第19回村野藤吾賞（平成18年）
- 第12回公共建築賞文化施設部門最優秀賞（平成22年）　など



100万人の想いメッセージ展

追悼平和祈念館では、入館者100万人到達を記念して「100万人の想いメッセージ展」を開催しました。展示したメッセージの一部を紹介します。





「長崎国際平和映画フォーラム2013」

10月19日・20日、26日・27日の4日間にわたり追悼平和祈念館主催の「長崎国際平和映画フォーラム2013」が開催されました。

映画フォーラムでは、原爆資料館ホールと追悼平和祈念館交流ラウンジを会場として、国内外の話題の映画16作品の上映とともに、朗読劇「ヒロシマ・ナガサキ」の上演やピースネットなどの盛りだくさんなプログラムが行われ、4日間で過去最高の2,600人の方が来場しました。

10月19日(土)

◆原爆資料館ホール

追悼平和祈念館の智多館長によるあいさつを皮切りに映画フォーラムがスタートしました。今年公開されたばかりの、青来有一氏原作の「爆心　長崎の空」をはじめ4作品が上映され、「はだしのゲンが見たヒロシマ」の上映の際には石田優子監督の舞台あいさつが行われました。

◆祈念館交流ラウンジ

交流ラウンジでは、アメリカ・ロサンゼルス郊外のアーバインとピースネットで結び、継承部会員の山川剛氏、活水高校の生徒の皆さんと現地の若者が意見交換を行いました。また、午後は石田優子監督をはじめ「はだしのゲンが見たヒロシマ」の製作関係者のトークセッション、NBC製作のドキュメンタリー番組「静かな声」の上映がありました。

トークセッションの様子

10月20日(日)

◆原爆資料館ホール

この日は、巨匠スティーブン・スピルバーグ監督の「シンドラーのリスト」など3作品が上映され、「沈黙の春」の上映にあたっては坂田雅子監督の舞台あいさつがありました。

◆祈念館交流ラウンジ

「在米被爆者証言映像」の上映に引き続き、「神と原爆」(NBC)、「私は原爆を伝えたかった」(nccc)の上映がありました。その後、坂田雅子監督のトークショー、活水高校、小ヶ倉中学校の生徒の皆さんによる被爆体験記に基づいた紙芝居の上演と長崎市役所二胡愛好会の皆さんによる二胡の演奏がありました。両校の皆さんには日ごろから熱心に練習に取り組んでいる様子がうかがわれ、来場者の感動を呼んでいました。

10月26日(土)

◆原爆資料館ホール

映画フォーラムのプロデューサーでもある稲塚秀孝監督の「二重被爆～語り部・山口彊の遺言」や小林正樹監督の「人間の條件」第一部、第二部など4作品の上映がありました。

また、特別プログラムとして朗読劇「ヒロシマ・ナガサキ」も上演されました。これは、稲塚監督が台本を書き下ろした山口彊氏の被爆体験をめぐる朗読劇で、俳優養成所「無名塾」の俳優お二人と祈念館の被爆体験記朗読ボランティア29人が共演しました。事前練習や前日リハーサルなど出演者の皆さんは苦労の連続だったかと思いますが、来場者からは称賛の声が多く寄せられました。

活水高校生徒による紙芝居

朗読劇の一場面

◆祈念館交流ラウンジ

ひめゆり平和祈念財団のご協力により、同財団製作のアニメ「ひめゆり」と「沈黙のマリア」(KTN)の上映がありました。「ひめゆり」の上映では約100人の子供たちが来場しました。また「沈黙のマリア」上映後にはKTNの関係者より製作にあたって苦労された点などについてお話を伺いました。

映画「ひめゆり」の上映
多くの子供たちが鑑賞しました

10月27日(日)

◆原爆資料館ホール

前日に引き続き「人間の條件」第三部から第六部の上映がありました。全六部で約9時間半の超大作ですが、すべて鑑賞された方もいらっしゃったようです。

今回、来場者数は過去最高となりましたが、さらに認知度を上げていきながら、一人でも多くの方に来場いただき、今後どのように被爆の継承を行っていくのかという大きな課題の中で4年前にスタートさせたこの映画フォーラムをさらに発展させていきたいと考えていますので、皆さまのご協力をよろしくお願いします。

ニュージーランドで原爆展が開幕

追悼平和祈念館が主催する海外原爆展「HIROSHIMA NAGASAKI Peace Exhibition」が11月19日、ニュージーランド（NZ）のオークランド市で開幕しました。オークランド工科大学セントポールギャラリーⅢで行われた開会式には、日本総領事、NZ国連軍縮大使、オークランド市長ほか多数の来賓にご臨席いただきました。智多祈念館長のあいさつで始まった式では、オークランド市長から温かい励ましの言葉とともに、平和を願った「マオリの歌」を自らご披露いただくなど、NZらしい和やかなものとなりました。

その後、外務省から「非核特使」として委嘱された継承部会員の羽田（はだ）麗子さん（被爆時9歳）による被爆体験講話を行い、開会式に出席いただいた方が聴講しました。講話は、羽田さんの平和への願いがひしひしと伝わるもので、終了後は大きな拍手と羽田さんに歩み寄り声を掛ける参加者の姿がありました。会場には原爆写真パネル、被爆体験記、被爆者証言映像などに加え、被爆直後の長崎のパノラマ写真や平和を願う現地の子供たちのメッセージを展示し、真剣に見入る市民の姿が途切れなく続きました。また、折り鶴コーナーと平和へのメッセージコーナーでは、来場者とスタッフが一緒に鶴を折ったり、メッセージを書く姿がありました。

羽田さんの被爆体験講話は11月20日に市の中心部のPioneer Women's Hallで2回実施したあと、21日には首都・ウェリントン市の日本語補習学校で1回、再びオークランド市に戻って日本語補習学校で1回、開会式と合わせて計5回開催しました。現地に暮らす日本人の子供たちが日本語や日本の文化を継承していくための日本語補習学校では、放課後や休日にもかかわらず多くの子供たちが集まり、終了後に羽田さんにお礼を伝える姿が印象的でした。

オークランド市での原爆展は12月12日で終了しましたが、年明けには会場をウェリントン市の市立図書館に移して1月24日から2月9日まで展示を行います。

マオリの歌を歌うオークランド市長
（開会式会場）

写真資料を手に講話を行う羽田さん
（Pioneer Women's Hall）

追悼平和祈念館　第2回企画展

被爆体験記　数行の憶（おも）い

ほんの数行に込められた被爆者の憶いを感じてください

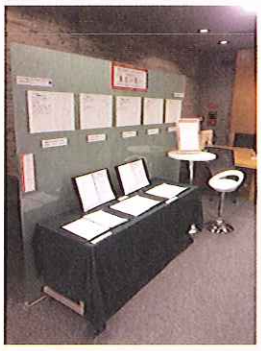
追悼平和祈念館では、被爆50周年にあたる平成7年度に厚生省（当時）が実施した被爆者実態調査の際に収集した被爆体験記をまとめた、長崎・両市被爆の被爆体験記集（125巻～200巻）の中から、数行しか書かれていない体験記にスポットをあて、企画展を開催中です。

大規模な展示ではありませんが、ソファーなどもあり、体験記をゆっくり手に取ってご覧いただけるようになっております。

この機会に、ぜひご来場ください。

とき　平成26年3月31日(月)まで

ところ　追悼平和祈念館
地下2階 遺影・手記閲覧室



第5回核兵器廃絶地球市民集会ナガサキ

11月2日～4日の3日間にかけて「第5回核兵器廃絶―地球市民集会ナガサキ」が原爆資料館ホール及び平和会館ホールを中心に開催されました。

「核兵器の非人道性」への注目が国際的に高まりつつある中開催された本集会では、4分科会において〝非核兵器地帯〟や〝若者の継承〟などをテーマに活発な討論がなされました。

集会最終日の4日には、各国政府に核兵器の全面禁止と廃絶を求めた外交交渉を始めるよう求めること、また、日本政府には「核の傘」依存政策の変更を求めることなどが盛り込まれた「長崎アピール2013」が採択され、閉会しました。

当協会も、NGOブースに協会の活動を紹介する資料などを設置し、ブースを訪れた参加者に説明を行いました。

国連軍縮週間行事
「市民のつどい」を開催しました

10月26日、当協会の恒例行事である「市民のつどい」が原爆資料館階段下広場で開催されました。

爽やかな秋空のもと、会場は多くの市民や子供たちでにぎわいました。

原爆写真コーナー

原爆の惨状を撮影した写真パネル数十点を展示しました。多くの来場者が足を止め、写真資料調査部会員の説明に耳を傾けていました。

戦時食コーナー

戦時中の食事を体験してもらうため、長崎県地域婦人団体連絡協議会と活水高校平和学習部の皆さんの協力により、「すいとん」や大根、サツマイモ、トウモロコシなどを使った戦時食を提供しました。

折り鶴コーナー

国際交流部会が担当した折り鶴コーナーでは、子供から大人まで、平和の願いを込めて丁寧に折り鶴を折っていました。集まった折り鶴は、千羽鶴にして核保有国へ送られます。

エコ風船コーナー

毎年子供たちに大人気のエコ風船コーナーでは、子供たちと継承部会員が楽しそうに会話をする様子も見られました。あまりの人気ぶりに用意した風船用のヘリウムガスがなくなってしまうハプニングも。

ミニコンサート

音楽部会員らによるミニコンサートでは、「青い空」や「翼をください」などの演奏と歌声に、一緒に口ずさむ来場者の姿も見られ、会場は和やかな雰囲気に包まれました。

紙芝居コーナー

「紙しばい会」の皆さんによる紙芝居が上演され、多くの子供たちが真剣に紙芝居に見入っていました。

ポップコーン・綿菓子コーナー

子供たちの行列が途切れることがなかったポップコーン・綿菓子コーナー。みんな笑顔で頬張っていました。

第27回外国人と市民の集い

11月16日に原爆資料館平和学習室で国際交流部会主催の「第27回外国人と市民の集い」が開催されました。

この外国人と市民の集いは、長崎在住の外国人を招いて、母国の歴史、文化や生活についてスピーチしてもらい、来場者との意見交換を通じて国際理解・交流を深めていくことを目的として国際交流部会が年1回開催しているもので、四半世紀以上も続いている歴史の長いイベントです。

当日は、多以良事務局長のあいさつの後、アメリカ、中国、インド、バングラデシュからの外国人5人が、ユーモアを交えながら流暢な日本語でそれぞれの国の文化や日本に対するイメージなどについて語りました。

会場には、外国人も含め約30人の来場があり、質疑応答ではさまざまな視点から質問がなされました。

質疑応答が終わった後は、懇談会が行われ、和やかな雰囲気の中、一層の交流を深めていました。

TOPICS! へいわトピックス

被爆者健康講話のお知らせ

1月～3月の講話予定をお知らせいたします。長崎・五島会場ともに、参加ご希望の方は追悼平和祈念館までご連絡ください。

と　き：午後2時～3時
ところ：追悼平和祈念館地下1階研究室（長崎会場）
　　福江総合福祉保健センター2階研修室（五島会場）
申込み・お問い合わせ：追悼平和祈念館
　　☎（095）814-0055

	と　き	テ　ー　マ
第8回	1月16日(木)	「転ばんライフを楽しむために」
第9回	2月20日(木)	（未定）
第10回	3月20日(木)	（未定）

包括的核実験禁止条約機関準備委員会 事務局長が来館

11月22日、包括的核実験禁止条約機関（CTBTO）準備委員会のラッシーナ・ゼルボ事務局長が追悼平和祈念館を訪れ、当協会継承部会員で初代非核特使の山脇佳朗さんの被爆証言を聞くなどしました。

ゼルボ事務局長は、西アフリカ・ブルキナファソ出身で、今年8月に事務局長に就任。外務省の招待で東京・広島に次いで長崎を訪れました。長崎滞在中は、田上長崎市長や高校生平和大使との会談や原爆資料館・追悼平和祈念館の見学を行いました。

山脇さんの証言を聞いたゼルボ事務局長は、「被爆者から被爆の実相を学べて光栄。証言は将来に向けた重要なメッセージ。多くの人が共有し、資産として生かしていく必要がある」と語りました。

山脇さん（手前）の証言を聞くゼルボ事務局長（中央）

米国の核性能実験に対し抗議文を送付

オバマ政権下で10回目となる核性能実験が本年7月から9月の間に実施されていたことが明らかになり、当協会はオバマ大統領へ抗議文を送付しました。

本年6月、オバマ大統領がベルリンで行った演説で核軍縮への期待が高まりましたが、実験はその期待を裏切るものです。

いかなる形であれ、核兵器の維持・開発につながる行為は容認できるものではなく、すべての核兵器関連の実験を放棄し、地球上から核兵器をなくすため共に歩んでいただくよう要請しました。

世界の核弾頭の数（2013年8月1日現在）

ロシア	米　国	フランス	中　国	英　国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合計
～8,500	～7,700	300	250	225	80	100～120	90～110	＜10	～17,300

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）提供　http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/

会員数報告

◎維持会員　1，127人
◎賛助会員　150団体・人
◎学生会員　9人
平成25年12月19日現在

寄付者紹介

ありがとうございます

◎大場　三榮　二万円
◎石井　眞壽　三千円
◎匿名　二万円
◎匿名　六千円
（敬称略）

フェイスブックページのお知らせ

「長崎市の平和・原爆」フェイスブック（FB）ページでは、協会・祈念館、長崎市の平和関連のイベントなど最新の情報をお知らせしています。

現在、国内外の二千人を超える方から「いいね！」をいただいております。

「長崎市の平和・原爆」FBページもぜひご覧ください。

二次元バーコードからアクセスできます。

本紙は再生紙を使用しています。
平成二十五年十二月二十八日発行
印刷　株式会社　藤木博英社

賛助会員（法人・団体）の一覧を協会ホームページに掲載しました。ご支援・ご協力誠にありがとうございます。

公益財団法人長崎平和推進協会　設立記念事業

神田香織氏 講演会「はだしのゲンを語り続けて」

講談「はだしのゲン」などを通じて「広島・長崎の惨状」と「命の大切さ」を訴える活動を続けている講談師・神田香織さんをお迎えして講演会を開催します。入場には、はがきによる事前の応募が必要です。お誘いあわせのうえご応募ください。

【神田香織氏プロフィール】
福島県出身。二代目神田山陽門下。ジャズ講談や一人芝居の要素を取り入れた独自の講談を次々発表、講談の新境地を切り開いている。代表作:「はだしのゲン」(1986年・日本雑学大賞受賞)、「チェルノブイリの祈り」など。

と　　き：**平成２６年２月９日（日）　１４時～１５時３０分**（１３時３０分開場）
と こ ろ：**長崎原爆資料館ホール**（長崎市平野町７－８）
入 場 料：**無料**（別途郵便はがきによる応募が必要です。）
応募方法：**「郵便番号」「住所」「氏名」「電話番号」**を明記、および当協会会員の方は**「会員」**と朱書きのうえ、下記のあて先まで郵便はがきでお申し込みください。

〒８５２－８１１７　長崎市平野町７－８
（公財）長崎平和推進協会「講演会係」あて

※はがき１枚につき、１人の応募となります。
（協会会員に限り１枚で２人まで応募できます。２人入場をご希望の方は「２人」とお書きください。）

応募締切：**平成２６年１月１５日（水）**　消印有効
※応募者多数の場合は会員優先のうえ、抽選となります。

第5期生 平和案内人育成講座が始まる

原爆資料館や追悼平和祈念館、平和公園周辺の被爆建造物等を案内し、被爆の実相を伝える平和案内人派遣事業も9年目を迎え、現在第1期生から4期生まで130人が登録し活動しています。

この度、年々増加するガイド申し込みに対応するため、第5期生育成講座の受講生を募集したところ、10代から70代までの39人の方々から申し込みをいただきました。

申込者の応募動機には、「被爆の実相を後世に伝えるため、その一員として頑張りたい」、「長崎市民として、また、被爆二世として、核兵器の非人道性を更に具体的に学び、伝えることができればと考え、応募しました」など、平和案内人として被爆の実相を語りついでいくことに強い意欲を感じる内容が多くありました。

11月23日に行われた開講式では、船山忠弘副理事長より「被爆者の複雑な心情を理解しながら、被爆の実相を伝えてほしい」とのあいさつをいただき、国民学校1年生の時に長崎医科大学附属医院で被爆した池田道明さん（継承部会員・平和案内人）の被爆体験講話に耳を傾けました。また、第3回講座では6班に分かれ、先輩平和案内人を講師として約3時間、原爆資料館の説明を受け、ガイドのポイントを学びました。

来年5月からの活動開始を目指し、ガイド実習や被爆体験講話、専門家による講義など、全16回の講座を通して原爆や平和に対する理解を深めていきます。